

優 秀 賞

当たり前にある水

筑西市立下館中学校

二年 奈良部 十和子

私は、新型コロナウイルスの感染対策として、毎日手洗いがいをしています。手洗いがいをする時には、水道から出る水を使います。蛇口をひねれば水が出て、しかも透明で清潔な水を当たり前のように使い、飲むことができます。

今テレビをつければ、コロナの話題ばかりです。特にインドでの感染爆発はすさまじく日本の感染状況とは比べものにならないくらい悲惨な状況だということがすぐに分かります。病院でもない、普通の屋外に苦しうに横たわる人々が映され、私の住む日本とは全く違うんだと知りました。映される映像を見ただけで、私が日々手洗いがいのために使用しているきれいな水など、ここにはないんだと思

ました。もしかしたら、きれいな水を使うことができなことも、コロナウイルスがどんだん広まってしまった理由のひとつなのかもしれません。その時に、以前本で読んだ恵まれない状況にあるアフリカなどの発展途上国のことを思い出しました。今回、それらの国々の水について調べてみようと思いました。

現在、水道を使用できる国は世界の半数以上ある一方、半数近い国は水道がありません。水道があつて当たり前だと思っていた私は、世界の半数が水道すらないことに驚きました。

六億人を超える人々が、安心して飲める水が身近になく、池や川、整備されていない井戸から水をくんでいます。多くの途上国では水くみは子どもの仕事だそうです。小さな子供達が水の重さに耐えながら、毎日遠い道のりを歩き続けています。もちろん疲れ果てた子供達は、学校に通う時間も体力も残っていません。このことを知った時、私はとても心苦しい気持ちになりました。私たちが楽しく学校生活を過ごしている間にも、この子供たちは生きるため

の水を求めて歩き続けているのです。ようやく水源にたどり着いても、これらの水は多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混ざっています。浄水処理をしないで飲むので、子供たちは下痢をおこしてしまいます。下痢で命を落とす乳幼児は、年間三十万人、毎日八百人にもものぼります。

私は小学生の時、上水道処理施設見学に行き、浄水処理した水を飲ませてもらいました。浄水処理をすることによって、きれいで安全な水が生まれます。色々な不純物が混ざっていて飲めない水が、こんなにきれいでおいしい水になるんだと、その時とても感動しました。もし、このような清潔な水がなかったらと考えると私は怖くなってしまいます。

しかし、この子供たちは清潔とはほど遠いひどい環境に置かれています。身体や生活環境を清潔に保てないから、コレラや赤痢など様々な感染症の伝染が発生します。発展途上国の水について調べている時に、一枚の写真がありました。それは、茶色に濁って水を飲んでいる少年の写真です。きっとどうすることもできなくて、生きるためにこの水を飲むし

かなかったのだと思います。この写真を見た時、私たちがどれだけ安全な環境で生活することができていたか実感しました。

現在、日本ではコロナウイルスが脅威になっていますが、途上国では日々色々な感染症が発生しています。それが今私たちが当たり前のようになっています。いるきれいな水があれば少しでも減らせるのではないかと思います。

私は今回改めて、安全な水を供給してもらっていることに感謝しなければならぬと思いました。このような安全な水をこれからも使用できるように、日々水を大切にしていきたいです。